

インフォメーション・コーナー

会 告

○ 2024 年度農業農村工学会賞の決定	64
○ 研究部会長の交代	64
○ 2025 年度農業農村工学会賞候補の推薦	64
○ 2024 年度（第 73 回）農業農村工学会大会講演会の参加申込み ㊦（訂正）	65
○ 2024 年度（第 73 回）農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み（再）申込締切 6 月 28 日	65
○ 今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！ 2024”（再）応募締切 7 月 31 日	66
○ お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	67
○ CPD 認定基準の一部改正（2024 年度から）—「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—	67
○ CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	68
○ 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	68
○ 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	68
○ 改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	69
○ 2025 年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9 月 30 日	70
○ 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022 年 7 月から 2024 年 6 月までの編集体制と編集事務局	71
○ 第 81 回京都支部研究発表会の開催（第 2 報）㊦ 発表申込締切 6 月 30 日	72
○ 第 79 回中国四国支部講演会および第 48 回地方講習会の開催案内（第 1 報）㊦ 10 月 16 ～ 17 日開催	73
農業農村工学会論文集 内容紹介	74
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌 最新号掲載論文紹介	75
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覽 ㊦	77
学会記事	78

会員のみなさまへ

引っ越しや転勤などで個人情報に変更のある方は、suido@jsidre.or.jp までご連絡ください。

なお、会員専用サイトでも、登録された個人情報の確認と変更手続きができます。

第 92 巻第 7 号予定

展望：東北は先進地！：藤崎浩幸

小特集：東北の農業農村整備の現在と未来に向けた取組み

報文：東北地方における農業農村整備事業の現状と展望：川村文洋

報文：青森県の中山間地域におけるスマート農業導入の取組み：山本貴則ほか

報文：ナガイモ作付け畑における土壌硬度の変化の特徴と品質への影響：遠藤 明ほか

報文：大雨による農業用水利施設の被災と再度災害防止の取組み：足立 徹ほか

報文：東北太平洋側の中山間地域のいまと今後：黒田裕一ほか

技術レポート

北海道支部：農業用ダムへの小水力発電設備の設置検討事例：藤田菜穂ほか

東北支部：新宮川ダムにおける渇水時の貯水管理の事例：秋葉裕行

関東支部：排水路に造成する環境配慮施設の構造検討事例：川岸彩音ほか

京都支部：新技術を活用した農業用ため池防災対策の事例：見屋井一輝

中国四国支部：地下ダム施工における着底管理の事例：椎葉偉久ほか

九州沖縄支部：圃場整備工事における事業主体からの設計・施工の留意点：篠塚慎太郎

小講座：大雨の形態と線状降水帯の発生機構・出現頻度：廣川康隆

私のビジョン：ため池に通って 20 年：濱上邦彦

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととなります。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2024年9月 10～13日	大会運営委員会	2024年度（第73回）農業農村 工学会大会講演会 ㊦	—	弘前市	91巻12号、 92巻1, 2, 3, 6号
2024年10月 31日～11月1日	九州沖縄支部	令和6年度（第105回）支部大会 ㊦	—	福岡市	92巻4号
2024年10月 16～17日	中国四国支部	第79回支部講演会 第48回地方講習会 ㊦	—	鳥取県	92巻6号
2024年11月 19日	京都支部	第81回研究発表会 ㊦	—	奈良市	92巻4, 6号

2024年度農業農村工学会賞の決定

2024年度農業農村工学会賞は、2024年5月10日（金）開催の第279回理事会において、学術賞1件、研究奨励賞4件、優秀論文賞1件、優秀報文賞5件、優秀技術賞1件、優秀技術リポート賞6件、環境賞1件、歴史・文化賞3件、地域貢献賞3件、メディア賞1件、功労賞1件、上野賞2件、沢田賞1件が、決定いたしました。

なお、詳細は学会ホームページおよび本誌第7号巻頭2024年度（第73回）農業農村工学会大会講演会のページをご参照ください。

研究部会長の交代

2024年4月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

応用水理研究部会

新部会長 桐 博英

前部会長 高木 強治

農村道路研究部会

新部会長 兵頭 正浩

前部会長 川名 太

水文・水環境研究部会

新部会長 清水 克之

前部会長 久保田 富次郎

畑地整備研究部会

新部会長 中村 公人

前部会長 丸居 篤

2025年度農業農村工学会賞候補の推薦

2025年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、締切は、2024年10月末日です。推薦書様式および授賞規程募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

は学会ホームページをご参照ください。

2025年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2019年10月から2024年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2021年10月から2024年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2021年10月から2024年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2023年10月から2024年9月までに発表されたものとする。	2023年10月から2024年9月までに発表されたものとする。	2022年10月から2024年9月までに発表されたものとする。	2019年10月から2024年9月までに発表されたものとする。

賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体	
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村・地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2014年10月から2024年9月までに発表されたものとする。	2019年10月から2024年9月までにを行った活動とする。	2022年10月から2024年9月までにを行った活動とする。	2019年10月から2024年9月までにを行った活動とする。	2019年10月から2024年9月までにを行ったものとする。	2019年10月から2024年9月までにを行ったものとする。	2022年10月から2024年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2024年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2024年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

2024年度(第73回)農業農村工学会大会講演会の参加申込み(訂正)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



学会誌第92巻第5号(60ページ)に掲載いたしました、
2024年度(第73回)農業農村工学会大会講演会の大会参加費

用につきまして、学生(オンライン聴講)の参加費に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

【誤】

3. 参加費用

(1) 大会参加費用(税込)と内容

区分	事前登録(7/31まで)	当日登録
一般	13,200円	15,400円
学生	3,300円	5,500円
一般(オンライン聴講)	13,200円	15,400円
学生(オンライン聴講)	3,300円	5,500円

【正】

3. 参加費用

(1) 大会参加費用(税込)と内容

区分	事前登録(7/31まで)	事後登録(8/1から)
一般	13,200円	15,400円
学生	3,300円	5,500円
一般(オンライン聴講)	13,200円	15,400円
学生(オンライン聴講)	0円	0円

2024年度(第73回)農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み(再)

2024年9月10日(火)、11日(水)、12日(木)の3日間、弘前大学文京町キャンパス(青森県弘前市)で開催されます2024年度農業農村工学会大会講演会において、企業展示を行うとともに大会講演会概要集への広告掲載を行います。企業展示もしくは広告掲載を希望される企業は、下記要領によりお申し込みください。

1. 企業展示

弘前大学文京町キャンパス

※具体的な場所や条件はお問い合わせください。

なお、展示スペースの関係上、申込み先着20社までとさせていただきます。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載(A4判モノクロ印刷)

※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

- | | |
|--------------------|--------------|
| ①広告1ページ | 88,000円(税込) |
| ②広告1/2ページ | 44,000円(税込) |
| ③企業展示(屋内) | 110,000円(税込) |
| ④広告1ページ+企業展示(屋内) | 176,000円(税込) |
| ⑤広告1/2ページ+企業展示(屋内) | 143,000円(税込) |

4. 申込方法

(1) 申込用紙の送付

所定の申込用紙(農業農村工学会大会講演会のページ([https://www.jsidre.or.jp/zenkokutai/](https://www.jsidre.or.jp/zenkokutai/zenkokutai/))に掲載)を、また、企業展示の場合は、(2)に示す展示概要(任意様式)を大会事務局に送付(郵送、E-mail等)。その後の手順は以下のとおりです。

- a (大会事務局) 申込み受付後、貴社へ連絡
 b (貴社) 広告原稿の送付(広告の場合)、資料用原稿の送付(企業展示の場合)
 c (大会事務局) 請求書の発送、大会講演会概要集の発送(広告の場合)、企業展示資料の発送(企業展示の場合)
 d (貴社) 振込み

e (大会事務局) 領収書発送

(2) 展示概要

展示する内容および必要物品等(要電源、机、イス等)、希望事項等を任意様式で作成・提出してください。基準面積は幅1.8m×奥行き1.5m(屋内)です。

(3) 申込期限 2024年6月28日(金)まで

(4) 振込先

- ・金融機関：ゆうちょ銀行
- ・店名：一三八
- ・店番：138
- ・預金種目：普通預金
- ・口座番号：1571290
- ・口座名義：シャノウギョウノウソンコウガツカイ

(5) 申込み・問合せ先

2024年度農業農村工学会大会事務局
 〒036-8561 青森県弘前市文京町3
 弘前大学農学生命科学部 森 洋
 TEL: 0172-39-3871
 E-mail: hmori@hirosaki-u.ac.jp

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2024”(再)

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2024年7月31日(水) 17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2024年度のテーマ 「ここにあった！農業農村の未来」
4. 応募資格 どなたでも応募できます。
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタグを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞(1作品) 2万円
優秀賞(2作品) 各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2024, こりゃ映像, 農業農村)を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名、年齢、性別、

所属、連絡先、YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには
—Android入門

<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像！2023 結果

最優秀賞：水とともに生きる北信州

長野県北信地域振興局農地整備課 宮嶋裕樹
松嶋奈恵初

<https://youtu.be/x3Wj-FMIbVc>

優秀賞：こんなにも！農業農村～睦月島里島ものがたり～

愛媛県睦月島 林農園 林 秀喜
内外エンジニアリング株式会社 藤原千里

<https://youtu.be/BTRzqmZkYxw>

優秀賞：【土木の偉人】中村哲さん【1分でわかる】

三重大学大学院生物資源学研究科修士1年 加藤沙耶香
https://www.youtube.com/watch?v=m_lEaQdBZxU

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

ポストコロナの社会的状況を踏まえ学会では2024年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途^{など}を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

この度、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充（⑦）を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

(2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ (https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 認定基準の一部改正（2024 年度から）

—「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—

近年、品確法や建設業法の下で CPD が評価され、また日本技術士会では「技術士（CPD 認定）」の運用が始まるなど、CPD の活用が進んでいます。その一方で、コロナ禍の行動制限によって研修の形態が「集合対面型」より、インターネットを介した「自己学習型」が増加し、参加証明が得難い研鑽機会も増大しています。

農業農村工学会技術者継続教育機構では、このような自己学

習型の研修実績を正當に評価するため、2024 年 4 月より、業務運営細則に定める「別表 2 教育形態区分表」を一部改正し、自己学習【x】の分類の記号を【x1】と【x2】に区分するとともに、年間上限値を他の主要な CPD 運営体と同等の合計 30 cpd（現在は 20 cpd）とします。

なお、自己学習型の記録申請には、これまでどおり証拠書類の提出は不要です。

【別表2】教育形態区分表の該当部分（下線部分を改正）

(改正後)

形態	分類Ⅰ	分類Ⅱ	記号	cpd 単位	上限値	証拠提出
⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	<u>x1</u>	0.5 H	10	－
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等	<u>x2</u>	0.5 H	<u>20</u>	－

(改正前)

⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x	0.5 H	10	－
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等		0.5 H	<u>10</u>	－

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 6 号掲載の問題は 7 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎月テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4 判、1,500 字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約 1 カ月後です。本文原稿の分量は、**刷上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 92 巻・第 93 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字程度)
第 92 巻第 7 号 東北の農業農村整備の現在と未来に向けた取組み (仮)	公募なし
8 号 農業水利システムにおける省エネルギー化の更なる推進に向けて (仮)	終了
9 号 農業農村工学の魅力発信 (仮)	終了
10 号 進化するシミュレーションモデル (仮)	終了
11 号 農業農村における野生鳥獣害対策の最前線 (仮)	終了
12 号 —	公募なし
第 93 巻第 1 号 農業農村工学分野における AI の活用 (仮)	7 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

第 93 巻第 1 号テーマ「農業農村工学分野における AI の活用」(仮)

人工知能 (AI) 技術は近年、共有可能なデジタルデータの増加、アルゴリズムの高度化、計算機能力の向上などによって加速度的に発展しています。また AI 関連の技術やフレームワークがオープンソースとして提供されることなどにより、さまざまな分野でその応用が進み、広範な産業領域や社会インフラなどに大きな影響を与えています。

一方、農業分野では農業労働力の主力となる基幹的農業従事者は年々減少傾向にあり、2020 年の統計では 65 歳以上が 70% を占め、担い手の高齢化や後継者不足が大きな問題となっています。現在の農業は、生産工程の多くで農業機械をはじめさまざまな技術の導入が進み、省力化が進展していますが、人手に頼る部分もまだまだ多く、一層の生産性向上のためには、ロボット、AI、IoT など先端技術の導入により、作業の省力化・自動化、高度化等の農業の DX 化を進めることが課題となっています。このため農林水産省では農業の DX 化を推進しており、農業農村工学分野においては、ダムや橋梁などのインフラ点検において、センサーやドローン等を活用した点検・監視が行われつつあり、農業水利施設の維持管理についても、デジタル技術を活用して、日常的な点検や、機能診断、監視の省力

化や、データ分析に基づく保全管理の効率化が進められています。これらの施策の推進により得られたデジタルデータの蓄積と、前述した AI 技術の発展は、農業農村工学分野の技術に大きな変革をもたらす可能性を秘めています。

このような中、本小特集では農業農村工学分野における AI の活用を取り上げます。AI は技術革新のスピードが速いことから、現時点での事例を広く共有することは、今後の技術開発や政策への AI の活用法を検討する上での礎となります。このような観点から、農業用施設の機能診断、各種解析、情報化施工、経験知の継承、防災および事故防止、作物分野と連携したリモートセンシングなど、農業農村工学分野への AI の活用事例や研究に関する報文を広く募集します。また昨今話題となっている生成 AI や説明可能な AI の農業農村工学分野への活用事例や研究に関する報文も歓迎します。

なお、近年の AI は、機械学習、特に深層学習 (ディープラーニング) に基づくものが中心となっていますが、本小特集では AI を機械学習に基づく技術に限定せず、それ以外の人工知能技術も対象とします。また報文では活用した AI の評価についても論じていただけたらと存じます。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」, 「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文 (テンプレート) の各ファイル (Word) を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日

に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧

の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6 版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なのは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂 6 版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

2025 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2025 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 93 巻（2025 年第 1～12 号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含む A4 以上 B4 以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙一光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含まれます。なお、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm、B4 は 257×364 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき 20 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 2024 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りします。

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 93 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2024 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名義（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称 : PAWE) を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまで PWE としておりましたが、2022年11月の国際集会以降は PAWE に統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2022年のインパクトファクター (IF) は2.2と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水 (排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生、陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換、施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国から Editor (20名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2022年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan

・ Editors 13カ国から20名

・ Editorial Advisors 30名

・ Chief Managing Editor

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan

・ Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science,
Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk
National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture
and Technology, Japan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS),
Japan

編集事務局 (2024年6月まで台湾担当)

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan

No. 1, Section 4, Roosevelt Road, Taipei, Taiwan

TEL : +886-2-3366-3476

FAX : +886-2-2363-5854

E-mail : chfan@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等: <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール: 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料: 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず

農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先: 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで
員番号を明記の上、お申し込みください。

第 81 回京都支部研究発表会の開催 (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 2024 年 11 月 19 日 (火) 10:00~17:30
(受付開始 9:00~)
- (2) 会場 奈良県コンベンションセンター
〒630-8013 奈良県奈良市三条大路 1 丁目 691-1
TEL: 0742-32-2290
- (3) 会場までのアクセス
近鉄奈良線新大宮駅より約 900 m
徒歩 約 12 分
JR 奈良駅より約 1.5 km
バス 約 8 分 27・28・160・161・162 系統
「奈良市庁前」下車すぐ
48・63・72・78・88・98 系統
「三笠中学校前」下車すぐ
徒歩 約 20 分

2. 情報交換会

- (1) 日時 2024 年 11 月 19 日 (火) 18:00~20:00
- (2) 会場 ノボテル奈良
〒630-8115 奈良県奈良市大宮町 7-1-43
TEL: 0742-32-3020
- (3) 会場までのアクセス 奈良県コンベンションセンター
より約 270 m・徒歩 4 分

3. 現地研修会

- (1) 日時 2024 年 11 月 20 日 (水)
- (2) 内容 現地研修会は奈良県内の農業水利施設や土地改良事業施工現場の視察等を予定しています。コース等、詳細が決まり次第、京都支部ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/kyoto/>) にてお知らせいたします。

4. 研究発表申込み

発表希望者は、講演要旨原稿の提出に先立ち、以下の情報を簡条書きにした電子メールを「発表申込み」という件名で近畿大学・木村まで送信してください。申込期限は 2024 年 6 月末日 までです。

- ① 表題 (仮題でも可)
- ② 発表者名, 所属, 年齢 (研究発表会時点)
- ③ 連名者名, 所属, 年齢 (研究発表会時点)
- ④ 希望発表部門 (水理, 水文・気象, 土壌物理, 土質力学,

応用力学, 材料・施工, 施設管理・更新, 灌漑排水, 農地造成・整備・保全, 農村計画, 環境保全, 生態環境, 地震・その他)

⑤ 発表者の連絡先電話番号

⑥ 発表者のメールアドレス

送信先: mkimura@nara.kindai.ac.jp

〒631-8505 奈良県奈良市中町 3327-204

近畿大学農学部 木村匡臣

5. 講演要旨原稿および投稿票の提出

(1) 提出先および期限

研究発表の申込みをされた方は、投稿要領に基づき作成した講演要旨原稿 (MS Word と PDF の両方) と投稿票 (MS Excel) のファイルを、電子メールで近畿大学・木村まで送付してください。提出期限は 2024 年 7 月末日 までです。

(2) 投稿要領

- ・発表者は学会員に限りませんが、連名者に少なくとも 1 名は学会員が含まれることとします。
- ・発表者は、研究発表会への参加申込みが別途必要ですのでご留意下さい。
- ・講演要旨原稿および投稿票は京都支部ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/kyoto/>) 内の「第 81 回京都支部研究発表会の開催について」より様式をダウンロードして作成してください。
- ・原稿の枚数は図面を含めて 2 枚とします。
- ・発表時間は 12 分の予定です (質疑応答の時間は今後決定)。
- ・PDF の原稿はそのまま印刷しますので、フォント埋め込み済みの鮮明な PDF を作成してください。
- ・発表の補助道具として、パソコン (OS は Windows10, ソフトは PowerPoint) を準備いたしますので、発表用のデータを USB メモリー でご持参の上、会場にてコピーをお願いします。
- ・その他、投稿要領の詳細は京都支部ホームページをご確認ください。

6. 参加申込み

(1) 参加申込み

参加申込みは、旅行代理店等を通じて行う予定です。

京都支部ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/kyoto/>) 内の「第 81 回 農業農村工学会京都支部研究発表会の開催について」にアクセスし、「参加申込み」のリンク先からお申込みください。

- (2) 申込期限 2024 年 8 月 30 日 (金)
- (3) 参加費等 研究発表会 (会 員) 3,000 円
 〃 (非会員) 4,500 円
 情報交換会 5,000 円
 現地研修会 4,500 円 (参加費 3,000 円,
 昼食代 1,500 円)*
 ※学生は、現地研修会の参加費は無料と
 し、昼食代はお支払いいただきます。

(ア) 昼食

- ・研究発表会の会場周辺では飲食店が少ないため、弁当を 1,100 円/個 (税込) で事前予約にて受け付けます。ご希望の方は参加申込み時に併せてお申込みください。
- ・現地研修会では、昼食をご用意しますので、参加費と合わせて昼食代もお支払いいただきます。

(イ) 参加費等の納入

- ・申込み後、京都支部ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/kyoto/>) 内の案内に従ってお振り込

みください。振込手数料はご自身でご負担願います。なお、納入された参加費につきましては、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(4) 宿泊について

当日は行楽シーズンにつき、宿泊施設が混み合うことが予想されます。事務局では、宿泊の斡旋は行いませんので、早めのご予約をお勧めいたします。

(5) 問合せ先

「参加申込み」に関する問合せにつきましては、京都支部ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/kyoto/>) をご覧ください。

7. 開催地事務局

奈良県食農部農村振興課

企画・地籍係 木下・小田垣

TEL : 0742-27-7452 FAX : 0742-24-5279

E-mail : kinoshita-daisuke@office.pref.nara.lg.jp (木下)

odagaki-keigo@office.pref.nara.lg.jp (小田垣)

8. その他

諸事情により、開催形式をオンラインに変更する場合がありますのでご了承ください。

第 79 回中国四国支部講演会および第 48 回地方講習会の開催案内 (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国四国支部では、第 79 回支部講演会および第 48 回地方講習会を下記の要領で開催することを予定しています。

1. 開催日 2024 年 10 月 16 日 (水) ~ 17 日 (木)
2. 会 場 とりぎん文化会館 (鳥取県立県民文化会館) 小ホール, 第 1, 2, 3 会議室
 〒 680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町 101-5
 TEL : 0857-21-8700
3. スケジュール (予定)
- 第 79 回支部講演会 10 月 16 日 (水) 10 : 00 ~ 17 : 00
 第 48 回地方講習会 10 月 17 日 (木) 9 : 00 ~ 12 : 00
 16 日 (水)
 9 : 30 ~ 受付開始
 10 : 00 ~ 10 : 25 開会式, 支部賞表彰式
 10 : 40 ~ 12 : 00 特別講演 (調整中)
 13 : 00 ~ 17 : 00 一般講演

18 : 00 ~ 20 : 00 情報交換会

17 日 (木)

9 : 00 ~ 12 : 00 地方講習会 (調整中)

4. 問合せ先

鳥取県農林水産部農業振興局農地・水保全課 川内, 山本, 官能

〒 680-8570 鳥取県鳥取市東町 1 丁目 220

TEL : 0857-26-7336

E-mail : nouchi-mizu@pref.tottori.lg.jp

講演申込み, 参加申込み等の詳細については、本誌掲載予定の第 2 報および中国四国支部ホームページで案内いたします。

中国四国支部ホームページ

(<https://www.jsidre.or.jp/tyugoku/>)

